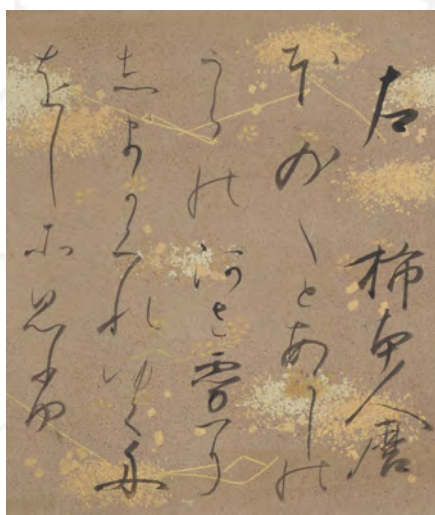
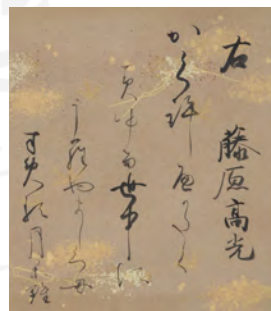




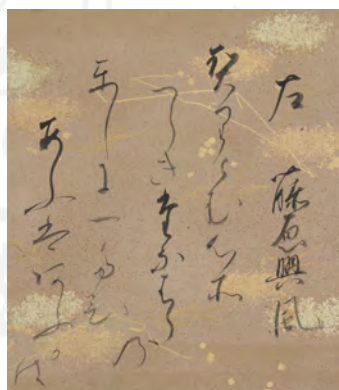
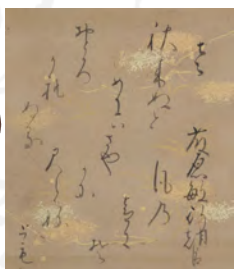
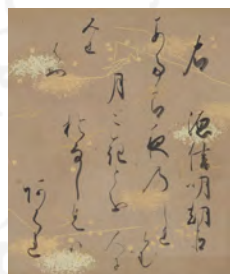
書で集う

企画展

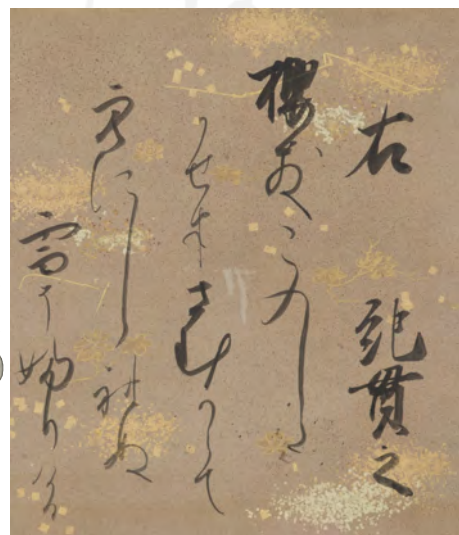


競うたのしみ

江戸時代の寄り合い書き



Calligraphic collaborations
in Edo period



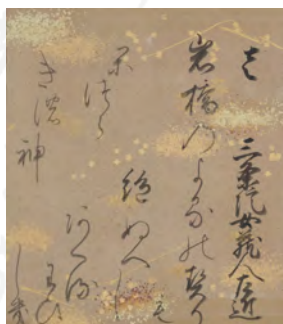
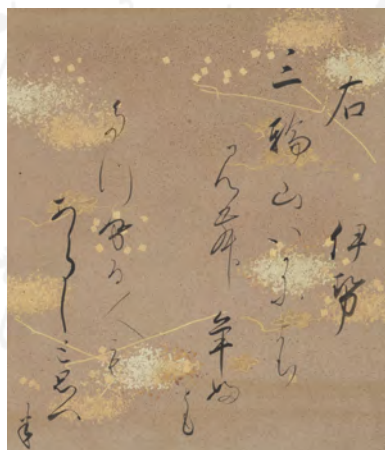
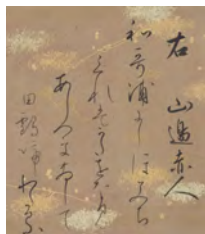
2019年

4月27日(土) ▶ 6月2日(日)

名古屋市博物館

NAGOYA CITY MUSEUM

報道資料



「三十六歌仙書画色紙帖」(部分)(館蔵)・「五色和歌絵押絵貼屏風」(部分)(館蔵)

はじめに

学校や職場で、色紙に寄せ書きを書いた記憶はありませんか？きっと絵や文字の配置や贈る言葉を考える楽しみを仲間と分かち合ったことでしょう。

書の世界では、何人かで力を合わせて制作した作品のことを、「寄り合い書き」といいます。

本展では江戸時代の寄り合い書きをテーマに、画家と公卿らが協同で計画的に作った画帖や、文人たちの交流の中から生み出された書画などを中心に紹介します。また、作品づくりに欠かせない書法技術や制作背景にも注目していきます。

近年話題の、音楽やダンスの要素が加わった現代の「書道パフォーマンス」作品も展示します。メンバーが気持ちを一つにして、大きな作品を作りあげる過程も必見です。ぜひご覧ください。



「野口道直六十宴之図并賛」(部分) (館蔵)

みどころ

① 筆跡のコラボ目白押し！

寄り合い書きの魅力といえば、一つの作品の中にたくさんの筆跡があることです。コラボレーションすることによって、一人では生み出せない魅力が引き出されていることもあります。また、今回は^{おうぎし}王羲之や^{このえいせい}近衛家熙といったおなじみの書の達人から、^{よこい}横井^や有^{ゆう}や^{のぐちみちなお}野口道直といった名古屋の文芸を支えた人物たちの筆跡が目白押し。お気に入りの筆跡をぜひ見つけに来てください。

② のぞいてみよう舞台裏

「なんで書かれたの？」「どうやったらこんな風を書けるの？」・・・なんていう疑問が書の作品を観ていると湧き上がってきませんか？寄り合い書きに参加した筆者の生没年や当時の歴史的背景を分析しながら、公卿と画家たちが協同で計画的に作った画帖の制作背景を掘り下げていきます。有名な古典作品を手本として技術を培う「臨書」の重要性や、江戸時代に流行した書風の特徴についても紹介していきます。

③ Making of 書道パフォーマンス

最近話題の書道パフォーマンスは、ダイナミックな筆遣いだけが魅力ではありません。本展では愛知県立愛知商業高校の協力のもと、「書道パフォーマンス」作品制作に向けての取り組みを取材しました。高校生たちの大作に挑む過程も必見です。

章構成

プロローグ 寄り合い書きとは？

これは、「尚齒会」と呼ばれる、高齢者が長寿を祝って、詩賦や和歌を作る遊宴の様子を描いたものです。作品を見てみると、俳人井上士朗とその門人たちが、楽しげに句を寄せ合っていることがわかります。

本展覧会では作品に見える参加者どうしの関係性や、作品が作られたきっかけを探りながら、作品が出来上がる場や様子を紹介します。

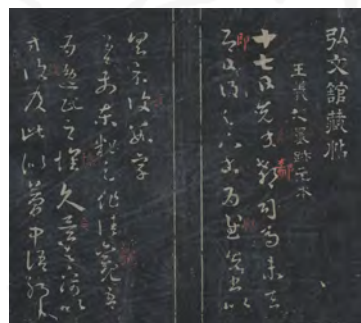


横井金谷画・井上士朗他筆「尚齒会図」（館蔵）

I 表現の原点

寄り合い書きに参加者の多くは、作品を作る場で文字を美しく、形よく書けるよう、常日頃から修練しています。

ここでは、王羲之をはじめとした有名な古典作品を手本として技術を培う「臨書」の重要性を紹介します。また、理論や作法が書かれた「書論」を読み解きながら、作品作りには欠かせない技術と作法を向上させていく過程も合わせてご観いただきます。



「十七帖」（名古屋市蓬左文庫蔵）

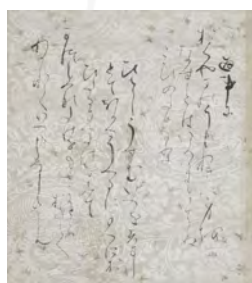
II 競うたのしみー様々な寄り合い書きー

寄り合い書きの作品の中でも、制作背景に計画性がうかがえる作品と、人物交流の中で生み出された作品を中心に紹介します。メンバーやシチュエーションごとに異なる作品の趣をお楽しみください。また、トピックごとに筆者が駆使している書法技術や制作背景にもスポットをあて、作品のより深い魅力もお伝えします。

①調度本の世界

「調度本」と呼ばれる、贈答品や嫁入り道具として作られた装飾性の高い書物を展示します。これらの多くは、平安の貴族文化の流れを汲む『源氏物語』や和歌集を中心に構成され、書写はしばしば分担して行われました。

調度本の分担書写に携わった人物と、彼らが駆使した書法技術を中心に紹介します。



「石山切貫之集下」（個人蔵）

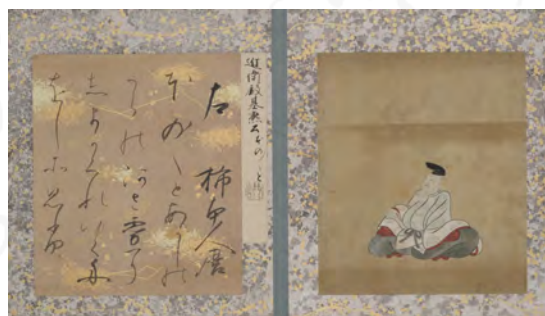


「三条西家本 源氏物語」
（名古屋市蓬左文庫蔵）

②寄り合い書きの妙

江戸時代、画家と公卿らは協同して歌集や文学作品をモチーフとした巻物や屏風、手鑑などを制作していました。

制作された目的や年代に加え、制作メンバーの選定や詞書の草稿などを手掛けるプロデューサーの役割を果たすような人物が活躍していた事例も踏まえながら、制作背景に見える計画性に注目し、紹介します。



「三十六歌仙書画色紙帖」（部分）（館蔵）

③即興セッション —尾張文人の交流—

尾張の文人たちは、俳諧などの文芸を通じて、身分や職業をこえて交流していました。

彼らは句会などを通じて親交を深め、時には1枚の紙に句や絵を寄せ合っています。

文人たちの伝統書法にとらわれない独特の表現を紹介します。



内藤東甫画・横井也有筆「二筆すさび」(部分)
江戸時代(館蔵)

⑤画賛の書 —唐様とのコラボレーション—

尾張文人の交流の中から生み出された画賛(画に添えられた詩文)に見える、唐様(中国風の書)の書を紹介。江戸時代後期に流行した中国書法をどのように咀嚼し、唐様として展開していったかに注目します。

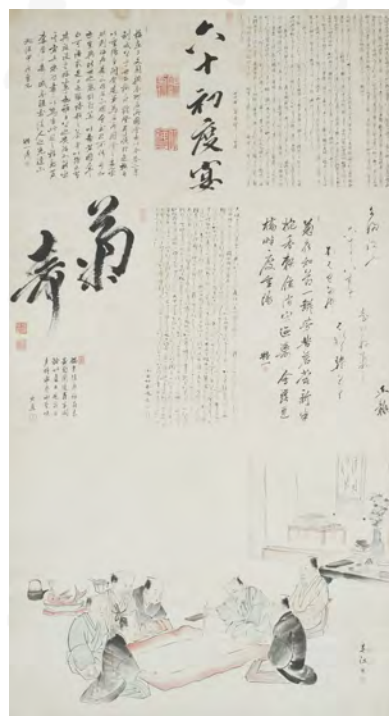


山本梅逸画・貫名菰翁賛「水月観音図」
江戸時代(館蔵)

④祝賀の競演 —野口道直とその仲間たち—

『尾張名所図会』を編纂した、野口道直(梅居)と仲間たちの書画を通じた交流の様子を紹介します。

道直の還暦祝いの折りに、名所図会編纂メンバーと共に作りあげた寄り合い書きの制作過程と宴の様子を詳しく見ていきます。



「野口道直六十宴之図并賛」
江戸時代(館蔵)

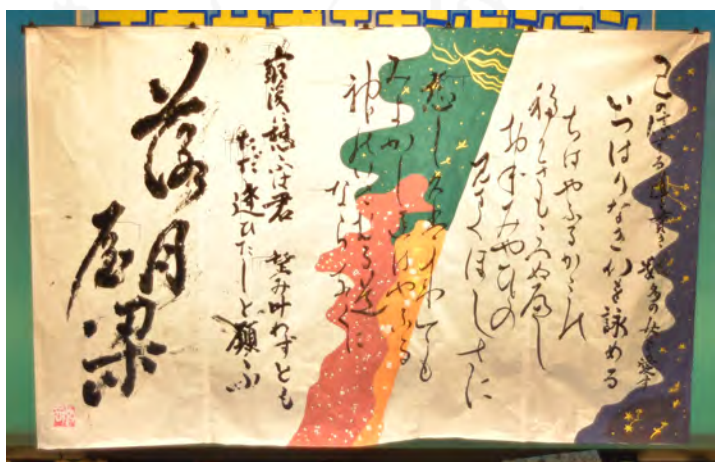


横井金谷画・井上士朗他筆「尚齒会図」(部分)(館蔵)

エピローグ 寄り合い書きの今

近年流行している、音楽やダンス要素が加わった「書道パフォーマンス」を見ていきます。

今回は、愛知県立愛知商業高等学校書道部を取材しました。江戸時代と同じように、一つの作品を作りあげる喜びを仲間と共有する高校生の姿を紹介します。



作品イメージ(まちサボエキシビジョン2018より)

関連事業

展示説明会

5月2日(木・休)・5月26日(日)

担当学芸員が展覧会の魅力を解説します。

いずれも 13:30～(13:00 開場)

展示説明室 当日先着 100 名 聴講無料

ギャラリートーク

4月27日(土)・5月15日(水)

担当学芸員が展示室内をご案内します。

いずれも 13:30～(30 分程度)

特別展示室 当日先着 30 名程度 要観覧券

★各種イベントで、手話通訳・要約筆記などによるサポートをご希望の方は、当日の2週間前までに名古屋市博物館までご相談ください。

観覧
無料

書道パフォーマンス



作品イメージ(まちサポエキシビジョン2018より)

出演：愛知県立愛知商業高等学校書道部

5月3日(金・祝) 14:00～ 観覧無料

博物館玄関前 *会場は天候によって変更する場合があります。

「書道パフォーマンス甲子園」の全国大会に出場経験がある愛知県立愛知商業高等学校書道部による書道パフォーマンスをご披露します。

今回、書道パフォーマンス甲子園と同じ規格、縦 4m×横 6m の紙で作品を作りあげてもらうことになりました！ダイナミックな筆遣いと音楽に合わせて世界観を表現するパフォーマンスも見どころとなっています。

ご案内

展覧会情報

会場：名古屋市博物館 1階 特別展示室

会期：2019年4月27日(土)～6月2日(日)

休館日：毎週月曜日(祝休日の場合は翌平日)・第4火曜日

5月7日(火)・13日(月)・20日(月)・27日(月)・28日(火)

4月27日(土)～5月6日(月・休)は毎日開館

開館時間：9時30分～17時(入場は16時30分まで)

観覧料

一般300(400)円 高大生200(300) 中学生以下無料 市内在住65歳以上100(200)円

(敬老手帳等の提示が必要)

* () 内は常設展との共通料金。

* 名古屋市交通局の一日乗車券・ドニチエコきっぷを利用して来館された方は当日料金より 50 円割引。

* 身体等に障害のある方または難病患者の方は、手帳または受給者証のご提示により、本人と介護者 2 名まで無料。

* 30 名以上の団体は割引があります。お問い合わせください。

* 各種割引は重複してご利用いただくことはできません。



「風雪人 雪のむしろ」(部分) (館蔵)

名古屋市博物館

おでかけは交通機関で。名古屋駅から地下鉄桜通線で 17 分。「桜山」駅下車 4 番出口から徒歩 5 分。

〒467-0806 名古屋市瑞穂区瑞穂通 1-27-1 TEL 052-853-2655 FAX 052-853-3636

<http://www.museum.city.nagoya.jp/>

広報用 作品画像・読者プレゼントチケット 申請書

名古屋市博物館 企画展

「書で集うー競うたのしみ 江戸時代の寄り合い書きー」

2019年4月27日(土)～6月2日(日)

広報用画像の使用は、企画展「書で集うー競うたのしみ 江戸の寄り合い書きー」を紹介する場合に限ります。
展覧会終了後のご使用、または二次利用はお断りします。
広報用画像を紹介する場合は、展覧会名・会期・会場・作品名を必ず記載してください。
広報用画像の背景抜き・トリミング・変形・部分使用・文字のせを行う場合、事前に申請の上、承諾が必要となります。
掲載記事につきましては、原稿及び校正稿にて内容の確認をさせていただきますので、下記のお問合わせ先までお送り下さい。

貴社についてお知らせください

貴社名	媒体名
ご住所 〒	
ご担当者名	所属部署
TEL	FAX
E-MAIL	

ご掲載・放映の予定日がお決まりでしたらお知らせください。 年 月 日

【個人情報の取扱いについて】

ご記入いただきました個人情報は、名古屋市博物館より今後の催事に関する情報発信や連絡などが必要な場合にのみ使用します。許可なく第三者に開示することはありません。

作品画像を1点以上掲載し、本展をご紹介いただける場合、
読者向けチケット(5組10名分まで)を提供します。

☐希望する 組 名分
☐希望しない

*掲載媒体を1部納本ください。原則として掲載紙・誌が博物館に到着し、確認させていただいてから発送いたします。
WEB媒体の場合は、公開開始時に掲載ページのURLをお知らせください。確認のうえ発送いたします。

★希望される画像の□に✓してください。

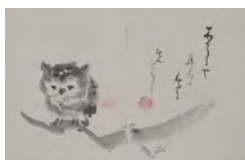
*資料名などの写真キャプションは記載のとおり表記して下さい。

□1



「尚歯会図」
江戸時代(館蔵)

□2



「二筆すさび」(部分)
江戸時代(館蔵)

□3



「三十六歌仙書画色紙帖」(部分)
江戸時代(館蔵)

□4



「野口道直六十宴之図并賛」
(部分) 江戸時代(館蔵)

□5



「五色和歌絵押絵貼屏風」
(部分) 江戸時代(館蔵)

お問い合わせ先

名古屋市博物館
学芸課

■ 広報担当 学芸課普及係 主査：小林 担当：藤田

〒467-0806 名古屋市瑞穂区瑞穂通1-27-1

Tel.(052)853-2655 / FAX (052)853-8400 / e-mail ncm-gaku@juno.ocn.ne.jp

HP <http://www.museum.city.nagoya.jp/>